

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2772201832		
法人名	和田建設株式会社		
事業所名	グループホーム田島サンライフ (1階)		
所在地	大阪市生野区田島4-3-2		
自己評価作成日	平成27年4月22日	評価結果市町村受理日	平成27年6月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 MIRO谷町 4階		
訪問調査日	平成27年4月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>当施設では、アットホームな雰囲気作りを心掛けており、食事作り・家事等、出来る事は一緒に行き、天気の良い日には散歩や買い物へ出かけます。 自慢の屋上では、春はお花見、秋は御家族様・御近所様・ボランティアの方々とお祭り、年間を通してお花や野菜を育て、皆で収穫を楽しんでおります。 又、 お一人お一人の思いとその人らしさをくみ取り支援させて頂いております。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「自立を目指し、生活リハビリを中心として、入居者一人ひとりがその人らしい生活を送れるように支援し、ご家族、地域の方々と気軽に相談、利用できる開かれた事業所を目指す」内容を理念として、家庭的な雰囲気のある支援内容及び事業所運営がされている。特に食事については、職員の手づくり料理で、普通の家庭と同じように新鮮な、季節感のある食材のを使った食事提供も大きな特徴である。広い屋上に家庭菜園があるなど、都心の中であっても、自然に親しむ配慮を行う等、工夫がされている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロア内の申し送りファイルにと事務所に掲示しており、申し送り時や記入時等、スタッフ間でも理念の共有や認識を深めていく事が出来る様努めている。	アットホームな雰囲気、出来る事を奪わない支援、個性や主体性の尊重、地域との交流を理念の内容に文章化して表現している。職員は理念に沿った支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	御利用者様と近所へ買い物や散歩へ出かけ、日々の交流を深めている。また、町会のふれあい喫茶に参加させていただいている。	日々の散歩や買い物、近くの喫茶店での寛ぎなど、機会を見つけて、地域との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いつでも見学に来て頂いたり、御相談に応じる事が出来る様にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町会の方や御家族様に参加していただき、現況報告を行い、ご意見や情報の提供を受けて、サービス向上に生かしている。	地域代表として町会長に出席をお願いし、地域包括支援センター、及び家族も参加したメンバーで開催されている。運営状況の報告、地域との交流について意見交換が行われ、事業所運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者とは、訪問時だけでなく電話連絡等も行い、関係性を築いていけるように努めている。	事業所の状況報告、個々の利用者の事例ごとの相談等、日頃から行政との良好な関係づくりに努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、スタッフに研修を行い、マニュアルもフロアに設置し理解を深めてもらう。玄関施錠については、現状でのリスクは高く、今後状況に応じて考慮していく。	研修の実施、マニュアルの整備を行うと共に、利用者個々の事例ごとに職員間で支援方法を話し合い、身体拘束や虐待につながらないように歯止めを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様、研修を実施し、資料公開と更衣・入浴時の身体状況確認・報告を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を活用されている御利用者様もおられ、状況に応じて活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行い、その際疑問や不安があれば、その都度質問・相談に応じる旨を説明する。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。また、面会時に話を聞いたり、電話やメールでのやり取り等からも要望や意見を聞いている。	家族の訪問時には健康状態や普段の暮らしぶりについて詳しく報告するように努めている。職員の笑顔による家族への対応は家族にも通じている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフには、フロア会議や申し送りの際に、提案や意見を聞く様にしているが、メモ等も活用し運営に反映できるよう努めている。	日々の引継時やスタッフ会議の場で現場サイドの提案や意見交換が行われ、職員が運営に参加できるようになっている。代表者、管理者、職員の連携はスムーズである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正社員登用やリーダーへの昇格などの実績に応じての役職手当の支給や、希望休等も出来る限り要望に応える様にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修へ参加出来る様にシフト調整を行ったり、交通費の一部支給も行っている。また内部研修も年数回実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流会や勉強会に参加し、他事業所とのネットワーク作りを行い、サービスの質を向上出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思い等を、見学に来られた時や面談時に直接傾聴し、アセスメントを行い、安心して過ごして頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回の相談時から、御家族様の思いを傾聴し、少しでも不安や疑問があればいつでも相談に応じる旨を伝え、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入前のアセスメントの聞き取りにより、何が出来て、何に対してのニーズがあるのかを確認しながら、サービスを利用できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に、洗濯を干したり、畳んだり、調理では、どのような調理方法や味付けがおいしいか、教えて頂いたり、調理・盛り付けなどもして頂く。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方が、「来ない」とおっしゃる場合には、家族様が、ご本人に対して、想われるお気持ちを持っていて事をお伝えし、少しでも安心されるよう、声掛け、また、おっしゃっていた内容も、家族様にご本人の様子としてお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩時に、寄れる際には、立ち寄り、ご本人様には、場所を見て頂いて、お話できるようにあれば、隣で付き添い、お話を頂いている。 (TU氏、生野南商店街 着物屋)	入所以前の本人の人間関係や行きつけの店などの社会との関係性が入所後も出来るだけ継続できるように努めている。個性・職員は主体性を大切にする支援を意識している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロア内で過ごされる時間、お一人でおられる際には、共に会話できるお席への移動の声掛けや、お手伝い(食器ふきや、洗濯干し、洗濯畳み)を複数で行い、皆さんが、お話できる環境を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時に、何かあればいつでも連絡して頂く様お伝えし、電話やメール・面談等、その時に応じて相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中で、会話時に、ご本人のご希望は、聞くように努めている。お誕生日には、好きな食事の外出を行う等、実現可能な事から実施している。	本人の趣味、嗜好、嫌いな事などを家族の協力を得ながら把握し、本人本位の支援ができるように、ケアプランにも反映させて、思いに沿った支援が行えるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前情報や、ご本人に聞く内容や、家族様にお尋ねする内容から、情報は、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の体調にあった過ごし方を意識し、体調が悪い方には、無理のないよう、様子観察や声掛けをマメに行い、調子のよい方には、時間を持って余されないよう、できる事の提案を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の状態を介護記録や申し送りを活用してのモニタリングを行い、変化が見られた際には、家族様への報告を行う等、現状に沿っての介護計画作成に努めている。	本人の希望および家族の意向を聞き、かかりつけ医からは体調面緒指示をもらい、関係職員が意見交換し計画書に反映させ家族の同意を得ている。定期的にカンファレンスを行って計画書の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記入や申し送りで必ず、情報共有を行い、変更事項や注意事項に関しては、連絡ノートに記載し、読み、確認するごとに、サインを行い、継続や見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日の利用者様の様子は、様々である為、できる限り、過ごしやすいフロアの空気作りを行う事に努めている。(イライラされている方は、散歩を増やしたり、不穏な方は、お話を聞きながら、スタッフと共に取り組む事で、気分転換を図る)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩のルートに、商店街や、神社を入れたり、地藏前を通った際には、一人一人手を合わせ、お参りしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時、かかりつけ医に対しての希望を伺い、従来のかかりつけ医を希望される場合はご家族様にご同行頂き、現況報告書を作成する等しており 又、2日/月の往診も実施している。	本人および家族の意向を優先してかかりつけ医の選定を行っている。主治医との連携を密にして利用者の体調管理を行っている。月に2日の契約医療機関の訪問往診が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師がいない為、利用者様の体調が悪い時や、変化がある時は、往診Drに、連絡報告を行い、指示に基づいた対応を行っている。必要に応じ、訪問看護による点滴等、施術されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者との懇親会や勉強会に参加し関係作りに努め、入院時の経過や退院時期の調整等の相談が出来る様、取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人のADL低下に伴い、ご家族様と連絡をとり、現状と今後の可能性について、お話をする。来所された時には、今後の体調の変化に合わせたサービス提供においてのご家族の意向と行っていける支援内容について、お話しし、共有し、その時に応じて、文書も提示している。	終の棲家として受け入れてくれる事業所の対応姿勢を家族は評価している。家族の意向を確認し、かかりつけ医の指示により、重篤の状態になった場合の支援方針が文書等整備されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時には、マニュアルを作成しており、その流に沿って、スムーズにおちついて対応が出来るよう、必要事項の記載がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルをフロアごとに配置し、地域との協力体制を築く為に、きずなマップ作りや対策会議等にも参加している。	防火消火設備及び通報設備は整備されている。消防署の指導協力を得て定期的な避難訓練が実施されている。近隣の協力体制づくりも行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お話をよく聞き、その方の言いたい事や聞いて欲しいと思われる内容に対し、しっかりと向き合い、お気持ちに寄り添える言葉かけを行う事に努めている。	利用者の生き方への配慮、尊重、個人情報の保護などプライバシーの確保については職員に徹底されている。歩人に寄り添った話しかけが行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	いつもキッチン内で、一緒に調理して下さる利用者様に、味噌汁の具を選んで頂いている。毎日、日課で行く散歩も、「やめておく」とおっしゃられる方がいた場合は、フロア内で、ゆったりと、ご本人様の過ごしたいように時間が流れる配慮し、後で「行きたい」とおっしゃられた時だけ、出来るだけ散歩に行けるよう調節している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常の流れの中で、ご本人様が、「嫌」とおっしゃられる時には、時間を置き、貴が向かれた時に、気分良く、取り組んで頂けるようご本人様の表情や様子に注意している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服の選択において、その日の気分で、ご自身の着たい服を着て頂いており、髪型や毛染め等も、できる限り、対応できるように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を切る、炒める、盛り付ける、テーブル拭き、食器洗い、食器拭き、食器なおし、に関して、お一人お一人の出来る事をお手伝いして頂き、「私の仕事だ」と役割を感じて頂いている。	食事への配慮、利用者の能力を引出す食事作りなどの一連の流れを大切に支援が行われている。職員の手づくりによる食事提供が利用者への寄り添う気持ちとして表れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様にあった、食事を提供し、水分量や食事量の摂取量の把握に努め、定期的な血液検査や体重測定により、栄養状態や健康管理を、往診Dr と情報共有しながら行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内ウェットティッシュ、舌上ブラシ、歯ブラシ等、その方に適した清潔保持の方法でケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の様子において、「トイレ」とおっしゃられてなくても、探しておられるような時には、トイレ案内を行う事で、自立に向けた支援を行っている。	自立したトイレでの排泄習慣作りを目標にして、個人個人のデータを把握して、事前の声掛けによるトイレ誘導を意識した支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事メニューのバランスに気をつけ、また、日常の中で、体を動かす事に積極的に取り組んで頂けるようお話している。お薬の服用でも、排便をコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	当日、入浴日でなくても、「入りたい」とおっしゃられた方には、業務に支障のない範囲で、出来るだけ入浴して頂けるよう、時間を作り、入浴して頂いたり、夜に入浴される事もある。	基本的に日にちや時間に事業所の都合を優先しないで、利用者の希望を聞き入浴してもらおうようにしている。ゆっくり落ち着いて入浴してもらおうように心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調に適した休息時間の提供を行っている。 入床前に不安など訴えがある際には、ご本人の話をよく聞くよう心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容に関して、ファイルにまとめており、いつでも確認できる状況にある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	少しでも楽しいと感じて頂ける時間が提供できるよう、時間のある時に、皆さんが楽しめる食事レクで、ホットケーキを焼いたり、散歩や指先を使う事や家事にご協力頂いたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	短時間でも行ける近場は、散歩を含め、出かけている。 公共交通機関を必要とする場合、実施回数は減るが、家族様の許可のもと計画を立て、安全確保できる人数で出かける事がある。	機会を見つけて、外気に触れる、気分を変える、五感の刺激を受ける、自然に触れる為の外出を心掛けている。造幣局の花見なども行事外出として計画されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持していない方には、家族様ご了承のもと、ご本人で管理して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様にお伝えする内容がある際、ご本人に電話をする旨をお伝えし、ご希望の際はお話して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内、定期的に換気を行い、過ごしやすい空間が提供できる様、雰囲気含め、整うように、気を付けている。	全体的にゆったりとした共用空間のレイアウトとなっている。トイレ、洗面等の場所のわかり易い表示、光、温度、湿度のコントロール、一人泣慣れる場所の確保などの配慮がされている。	施設らしくない家庭的な雰囲気のために、花や植物を共用空間に少し増やす事を考えて頂きたい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、和室、カウンター、テーブル席等、席を移動することも含め、いたい所ですごせるようご本人の様子もみながら、配慮・対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	筆筒や布団等、危険物以外は、ご本人にとって安心できるよう置いて頂いている。	使い慣れた家具や備品の持ち込みを考慮された利用者ごとの居室づくりとなっている。掃除も行き届き、安心して過ごせる雰囲気である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の過ごされたいように過ごせるよう、安全を確保した中で、なんでも試してみて、色々感じて頂ける時間や関わりに努めている。		